



日本産業衛生学会東海地方会

## 地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局  
〒541-0056  
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTBビル 8F  
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン  
事業共創部 コンベンション第二事業局内  
FAX: 06-4964-8804  
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

## 巻頭言

## 産業保健看護部会長として取り組みたいこと

浜松医科大学地域看護学講座・教授  
東海地方会産業看護部会長

渡井 いずみ



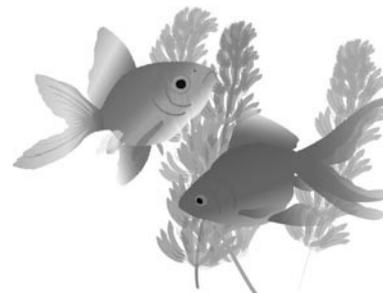
長年にわたり本地方会の産業看護部会を率いてこられた高崎正子前部会長から、令和7年度にバトンを引き継ぎました。これまで先輩方が築かれた東海地方会ならではの結束の強さや実践家に向けた研修・交流の機会を踏襲しつつ、時代の流れに合

わせて必要な改革にはチャレンジしていきたいと思えます。その抱負をもって巻頭言にかえさせていただきます。

私は千葉大学看護学部を卒業後、都内の病院で臨床経験、富士通(株)で産業保健の実践経験を積み、東京大学大学院に進学しました。研究テーマは産業ストレス(仕事と家庭生活との両立葛藤)で、修了後は教員(研究者)として3大学でキャリアを積んでまいりました。学会活動の中心は日本産業衛生学会ですが、日本公衆衛生学会や産業ストレス学会等、複数の衛生・看護系学会にも所属しています。本学会では、地方会以外に編集委員会のField Editorとして、産業衛生学雑誌、Journal of Occupational Health (JOH)、Environmental and Occupational Health Practice (EOHP)の編集に関わっています。

本学会は研究者よりも実践家が多い実学ならではの特徴があります。特に東海地方は、配慮を要する物理的環境や化学物質の取り扱い、交代勤務も多い製造業が多く、そのような職場環境の実践家・専門家からの知見を学会全体にも発信してきた強みがあります。一方で、職場の健康課題は認識しているものの、研究デザインや調査・分析・成果発表のノウハウを得る機会が首都圏等と比較して少ないため、多くの実践家が学会発表や論文執筆等の学術活動に大きなハードルを抱えていると感じます。日々労働者の健康に接している産業

保健実践家の気づきや疑問、支援策を「学術レベル」にしたい・・・と、昨年度は本地方会の産業看護部会の研究推進担当としてオンライン研究セミナー「学会で発表しよう!」を開催しました。嬉しいことに多くの看護職が参加し、受講者の大半が実際に学会発表を実現できました。学会は聴く・出席するだけでなく、学会発表や論文投稿など主体的に関わることで、さらに自身の見識が深くなります。勤務を継続しながら研究方法を学べる大学院も増えています。本学会でも研究方法を学ぶ機会を設け、日頃の実践活動の成果を披露できる会員を増やし、本地方会さらには産業保健の発展に貢献していきたいと思えます。



## 開催報告

## 2024 年度東海地方会学会のご報告

藤田医科大学医学部衛生学講座・教授 大神 信孝



日本産業衛生学会東海地方会の皆様には、東海地方の産業衛生の実践と研究、交流など様々な活動で大変お世話になっております。

藤田医科大学が東海地方会学会の会場となったのは新型コロナウイルス

感染症の感染拡大直前の 2019 年度以来になります。新型コロナウイルス感染症が感染症法の 5 類感染症に移行し、現時点では感染状況が落ち着いたこともあり、今年度の東海地方会学会は久しぶりに対面のみで開催させて頂きました。東海エリアだけでなく北海道や九州などの遠方から、多数の先生方に参加頂き、誠にありがとうございました。対面のみで開催形式で、遠方から参加頂いた参加者の皆様にはご不便をおかけしましたが、何卒、御理解いただけると幸いです。

今回、会員の皆様から午前中の一般演題に 18 題の演題を申込みいただき、誠にありがとうございました。基礎的な研究から、産業現場での実践報告まで、大学の研究者をはじめ、産業医、産業看護職等の方々から多様な演題が集まりました。限られた時間ではございましたが、興味深い演題、活発な議論をありがとうございました。

午後は 2 つのシンポジウムを企画させて頂きました。シンポジウム 1 では、東海地区で活躍する若手研究者から、研究成果だけでなく苦労した経験などを講演頂きました。今後、若手研究者の活躍が産業衛生の発展にどのように貢献していくかを考える機会になり、シンポジストの皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。シンポジウム 2 では、東海産業衛生技術部に企画頂き、「労働安全衛生法化学物質管理の大転換～自律的な化学物質管理はどこまで進んだか～」をテーマに掲げた集会を企画いたしました。東海地区企業等で実務に取り組まれている多職種の皆様からのお話を直接お聞きして、現状と課題を見つめ、互いに学ぶ機会とし、熱のこもった議論をして頂きました。社会全体の産業安全衛生に資する学会活動を含む使命や役割を考える機会になり、大変素晴らしい企画だったと思います。シンポジウム 2 は「日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度」に承認を頂いて開催させて頂きました。シンポジウム 2 を企画頂いた東海産業衛生技術部会の先生方、シンポジストの皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。

最後に、本学会の運営につきまして、十分に行き届かない点もあったことと存じますが、ご協力を頂き、誠にありがとうございました。今後ともどうかよろしくお願いいたします。



## 2024 年度日本産業衛生学会東海地方会学会に参加して

一般社団法人静岡県産業環境センター 労働衛生部 作業環境課 係長 高橋 伸 崇



2024 年 11 月 30 日 (土)、愛知県豊明市の藤田医科大学豊明キャンパスにて開催された産業衛生学会東海地方会学会に参加しました。私は普段、作業環境測定機関の測定士として、事業場の作業環境測定や現場の環境改善等に従事しているため、学会のような場にはあまり縁が無いのですが、主に現場の測定士としての「気づき」を報告させていただきます。

今回の地方会学会は「エビデンスに基づいた産業保健の推進」というテーマで開催されました。一般演題発表やシンポジウムの前半では最新の研究成果や実践的な取り組みについての知見が共有され、特に復職支援やメンタルヘルス対策における産業保健職の介入などの報告に関しては、客先の担当者からも類似の相談を頂いた事もあったため、今後の課題や取り組みも含め、大変勉強になりました。

シンポジウムの後半には「労働安全衛生法における化学物質管理の大転換～自律的な化学物質管理はどこまで進んだか～」として、企業、測定機関、大学など様々な立場の化学物質管理の推進者がシンポジストとして登壇し、取り組み状況や課題についての報告が行われました。また、規制当局からは静岡県磐田労働基準監督署の光田潤氏より、新たな規制の意図や今後の動向について指定発言があり、多角的な議論が行われました。シンポジウム中には会場参加者に対して、自律的な化

学物質管理についてのアンケートが実施されました。化学物質のリスクアセスメントの実施状況や、化学物質管理者と安全衛生管理体制の構築や仕組み化など、学会に参加する層においても取り組みの程度に差が見られ、自律的な化学物質管理の困難さを改めて認識したところでした。今回のような「企業規模や組織形態に関わらず、問題意識を持つ多様な立場の方々が一堂に会し、意見交換や議論をする場」はこれまでもあまりなかったように思えます。このような場は単なる課題解決に留まらず、異なる視点からの議論は新たな問題の提起にも繋がる有益な取り組みであると思うので、学会として今後も継続的に提供して頂きたいと強く思います。

また、昼休みの時間帯には、研究支援・相談の機会が設けられていました。なお、研究支援や相談については学術研究だけでなく、グッドプラクティス等の調査研究も対象になるとのことです。私を含め、現場での業務が多い方は興味深く感じられるのではないのでしょうか。

結びとなりますが、やはり測定士の立場で学会に参加される方は少ないようです。次回の東海地方会学会は、静岡で「組織を揺さぶる産業衛生のアプローチ」というテーマで開催されます。私は日頃より、「測定士は単に測定をするだけでなく、その結果に基づき、組織がより健全な方向へ進むための道筋を示す責任も担っている」と考えております。もし、この言葉に何か共鳴するものを感じていただけた測定士の方がいらっしゃいましたら、ぜひ次回の静岡でお会いできればと思います。



## 第 37 回 産業保健スタッフのための研修会の開催報告

三菱電機（株）静岡製作所 健康増進センター 保健師 望月 友美子



2024 年 10 月 13 日（日）、第 37 回産業保健スタッフのための研修会をウインクあいち（名古屋市）にて開催しましたので報告します。

「産業保健スタッフのための研修会」は、日本産業衛生学会の会員・非会員を問わず比較的経験の浅い産業保健スタッフに研修機会を提供する目的の研修会です。今回は、「駆け出し産業保健スタッフのための実地研修」をテーマに前回同様、2つの実地研修（「グループワークによる健康経営事例検討」と「ハンズオンによる健診データ分析（入門編）」）の並行開催となりました。

「グループワークによる健康経営事例検討」では、1部を教育講演として、オンライン形式で産業医科大学産業保健経営学研究室の小田上公法先生から「健康経営とリーダーシップサポート」というテーマでお話しいただきました。健康経営の必要性が高まった背景から、健康経営の実践までをわかりやすくご説明いただき、研究の知見をもとに健康経営の概念や具体的な効果などを学ぶ機会となりました。2部のグループワークでは、参加者が4～5人にわかれて中小企業を事例に、「健康経営」を推進する立場で実際にどのように進めていくのかについて事例検討を行いました。グループワーク1では、上司役のファシリテーターにヒヤリング

しながら事業所の現状把握と意見交換を行い、グループワーク2では、参加者の経験や取組みを共有しながら、健康課題の抽出・計画案作成を行いました。各グループワーク後には、企画委員の吉田美昌先生から課題例の解説と、各班から発表形式で事例検討した結果の情報共有を行いました（写真1）。参加者からは「最初に講義があってから、グループワークに入るという流れが、理解を深めやすく、とても良かった」「異業種・異業務役割の皆さんが抱える課題や問題に、直にふれることができた有意義な時間だった」などの感想をいただきました。

「ハンズオンによる健診データ分析（入門編）」では、参加者には各自ノートパソコンを持参し、健康診断形式の模擬データを、エクセルを用いて分析の体験をしました。模擬健診データの血圧値などについて平均や分散を算出し、図形で表し、職場によって血圧値に違いがあるかについてt検定・カイ二乗検定などの分析を行いました（写真2）。参加者からは「後半の話を詳しく聞きたかった。説明が分かりやすかった。」などの感想・要望をいただきました。

2つの研修を合わせ、総勢50名にご参加いただきました。研修参加者をはじめ、研修企画開催に尽力いただいた研修企画委員の先生方、健康経営事例検討のファシリテーターにご協力いただいた澁谷亮先生（トヨタ自動車）、水越真代先生（健康企業推進サポートシャイニング・ライフ）、ご挨拶いただいた斉藤政彦地方会長には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



写真 1



写真 2

## 第 32 回日本産業ストレス学会 開催報告

藤田医科大学医学部公衆衛生学講座 太田 充彦  
四日市看護医療大学大学院看護学研究科 後藤 由紀



2024 年 12 月 13・14 日、第 32 回日本産業ストレス学会をウインクあいちにて開催しました（オンデマンド配信：2024 年 12 月 25 日～2025 年 1 月 31 日）。1094 名から参加登録をいただき、盛会のうちに終了しました。

大会テーマは「産業ストレスを取り巻く人と科学技術と社会の進展」としました。科学技術の進歩や革新が起こると社会構造や生活が変わります。また、自然界や社会の変化をきっかけに、人々の考えや行動が変わり、科学技術の進歩や革新が起こります。産業ストレスにおいて近年どのような人と科学技術と社会の変化が起こったかを振り返るとともに、望ましい未来のために

できることを考える学会になることを目指しました。

日本産業ストレス学会は、産業ストレスおよびその対策に関する学術研究ならびに実践活動を行い、働く人々の健康維持増進に資することを目的とした学会です。産業ストレス対策には多職種・学際的な観点が必要です。今回の学会では、医療、看護、心理、人事労務、法務、行政などの様々な視点から、教育鼎談、シンポジウム 8 題、ワークショップ 3 題、教育講演 7 題を企画し、34 題の一般演題とともに実施しました。企画・運営においては、企画運営委員にご就任いただいた石川浩二氏、上原正道氏、酒井秀精氏、高崎正子氏、成定明彦氏、西賢一郎氏、日笠ちはる氏、水口要平氏、八谷寛氏、山本誠氏、湯佐真由美氏、吉田美昌氏、渡井いずみ氏に多大なるご尽力をいただきました。

開催にあたりましては、顧問を芦原睦氏、齊藤政彦氏、巽あさみ氏にお願いしました。65 の企業・団体からご協賛をいただきましたが、その中には東海地方会の皆様とご縁のある企業・団体も多くありました。皆様からいただいたご支援に感謝を申し上げますとともに、東海地方の産業衛生の力を改めて知ることができたことをうれしく思います。

## 新世代の認知行動療法（ACT やマインドフルネスなど）の産業保健での展開

成定 明彦、水口 洋平、高崎 正子

2024 年 12 月 14 日の第 32 回日本産業ストレス学会（2 日目）に、職場ストレス研究会との共催シンポジウムを開催しました。

最初の登壇者として、柳澤博紀先生にご講演いただきました。柳澤先生には 2 年前の第 92 回職場ストレス研究会（2023 年 2 月）で教育講演を頂き、本シンポジウムの発端になったという経緯があります。今回は『CBT の各療法の系譜と復職支援における実践例』と題し、マインドフルネスや ACT といった第三世代に至る認知行動療法の変遷と整理、「心理的柔軟性の向上」や「豊かな生き方」を目指すという特徴などを概説した後、所属する犬山病院のリワークでの実践例をご紹介いただきました。

続きまして、土屋政雄先生に、『職場における ACT の集団トレーニングの実践と研究』についてご講演いただきました。自職場で、集団トレーニングとして瞑想エクササイズを実践され、呼吸と身体の感覚双方に注意を向けることで心理的柔軟性を高めることができた事例をご紹介いただきました。ACT をマインドフルネスと行動変容を合わせたイメージとして捉え、特にマインドフルネスを通して受容（気づき）を促し、価値（本当に大事

にしたい自分の考え）に基づく行為（やってみる）に着目することが重要であることが大変学びになりました。

最後に、佐渡充洋先生に、『職域におけるマインドフルネスプログラムの適用と課題』についてご講演いただきました。マインドフルネスは、うつ病等の再発予防効果、ストレスやウエルビーイングの改善効果が明らかであることから、今回は職域における簡易型マインドフルネス認知療法の、労働生産性やワークエンゲージメントなどに対する効果検証結果概要をご紹介いただきました。

「健康やストレスは、個人対応の問題」という「個人化」「道具化」への批判や課題を通して、組織介入の重要性について、あらためて認識する機会となりました。



## 参加報告

## セミナーや周囲のご支援により踏み出せた発表への一歩

石原産業株式会社四日市工場 人事部四日市グループ 平野 はるみ



今回、学会発表に向けて看護部会学会報告支援セミナーを受講させていただきました。産業保健師歴が浅い私にとって、学会発表は時期尚早なのではないか感じていましたが、セミナーでの学びや周囲の温かいサポートにより、思い切って一歩を踏み出すことができました。発表の経験がほとんどなかった私にとって、「原稿の書き方」や「発表資料の作り方」を基礎から学べるこのセミナーは、大変貴重で実りの多い機会でした。

特に印象に残っているのは、毎回行われたグループワークです。自分が準備してきた内容に対して、参加者の皆さんやアドバイザーの先生方から、さまざまな視点でご意見やアドバイスをいただけたことで、原稿や資料をよりよいものへとブラッシュアップしていくことができました。そのやり取りを通じて、自分一人では気づけなかった課題や改善点に気づくことができ、大

変ありがたく感じました。また、他の参加者の方々の発表内容を聞くことも、自分にとって良い刺激となり、「自分も頑張ろう」と思えるモチベーションにもつながりました。

こうした積み重ねのおかげで、2024 年度の日本産業衛生学会東海地方会学会では、弊社で開催した認知症サポーター養成講座の取り組みについて、無事に発表を行うことができました。発表準備には苦労もありましたが、セミナーでの学びと皆さんの支えがあったからこそ、最後までやり遂げることができたと実感しています。また、学会発表を通じて、他企業の保健師の方や産業医の先生方とつながりを持つことができたことも、大きな収穫でした。今後の情報交換や実践の参考につながる貴重なネットワークを得られたことに、深く感謝しています。

今回の経験は、今後の業務の中でも必ず活かしていけると感じています。今後も積極的に学会や研修に参加し、よりよい産業保健活動を行っていきよう努めてまいります。このような貴重な機会を提供して下さったセミナー主催者の皆さま、そしてご指導くださった先生方に、心より感謝申し上げます。

## 東海地方会産業保健看護部会研究オンラインセミナーへの参加と初めての学会発表を経験して

ブラザー工業会社 人事部 安全防災 G 健康管理センター 保健師 中野 碧



2024 年 3 月から 9 月にかけて、東海地方会産業保健看護部会主催の研究セミナー「学会で発表しよう！」に参加させていただきました。当時は産業保健師歴 1 年目で学会発表の経験もなく、申し込むには勇気が必要でしたが、「スモールステップ」に惹かれて挑戦することにしました。セミナーは、全 4 回で 6 か月間にわたり開催されました。テーマのを見つけ方から、抄録や発表スライド作成のコツ、実際の発表のコツまで学ぶことができました。先生方のご講義とグループワークで構成されておりました。抄録を書くことは初めてで右も左もわからない状況でしたが、ご講義の中では抄録で記載すべき項目および各項目の具体的なポイントを学ぶことができ、講義資料に沿って何とか初めての抄録を書きあげることができました。実際に学会で発表予定のテーマについて抄録を作成し、グループメンバーや先生方に様々な視

点からご意見をいただきながらブラッシュアップしていくことができました。私の実践報告について、他社の保健師さんからの「もっとここが知りたい！」というご意見はとても貴重でした。限られた字数と発表時間の中で、より自社の取り組みを効果的に伝えることに繋がりました。また、他社の保健師さんの抄録や発表スライドを拝見する中でも新たな気付きを得られました。セミナーを経て、2024 年 11 月 30 日に開催された日本産業衛生学会東海地方会学会に参加しました。当日は、セミナーで出会った素敵な保健師の方々や、お世話になった先生方に直接お会いすることができ、とても嬉しかったです。発表順番は朝一番ということもありとても緊張しましたが、質疑応答や他社の産業保健職の方々との交流を通してフィードバックや感想をいただき、私自身も勉強になりました。「いつかは学会発表を」と迷っている中でこのようなセミナーに参加できたことで、高く感じていたハードルを下げていただき、1 年以内に学会発表を経験することができました。

セミナーや学会発表を通してお世話になった皆様、ありがとうございました。

## 受賞報告

## 功労賞を受賞して

一宮研伸大学教授 (名古屋大学名誉教授) 神原久孝



この度、日本産業衛生学会功労賞をいただきました。これも斉藤政彦先生、城憲秀先生をはじめ東海地方会の皆様方のご支援の賜物と深謝いたします。1979年に学会に所属して45年になります。名古屋大学で故山田信也先生の下で振動障害にかかわり、長年にわたる振動障害にかかわる活動が評価されました。

私が振動障害に取り組み始めたころは、学会において振動障害は主要な研究分野の一つで、多くの研究者の発表があり活発でした。私は主に手腕振動の人体影響について自律神経系を介した末梢循環障害や手指の末梢神経障害の解明などに取り組みました。全国的に多くの先生方の協力を得て研究できたのは、今から考えると幸せだったと思います。そして第7回国際手腕振動学会(プラハ)や第1回米国手腕振動学会(シンシナティ)での招待講演で、日本における研究成果を

表できたことは望外の喜びでした。

振動障害予防対策では、振動障害予防対策指針(2009年)の改訂にかかわらせていただきました。国際標準化機構(ISO)などの国際的動向を反映した内容です。使用工具の振動の大きさ(リスク)を把握・評価して、それに応じて工具の使用を日振動暴露限界値(A(8))に基づいて管理することで振動障害を予防するというものです。リスク管理型の疾病予防の労働安全衛生の考え方によるものです。こうした振動工具使用の管理が普及し、振動障害の発生がなくなることを願っています。

東海地方会とのかかわりでは、1987年に山田教授が第1回の東海地方会振動障害研究会を始められ、私が名大を退官するまで続けました。退官後は日本産業衛生学会振動障害研究会の研究会として継続しています。現在は振動障害予防のために低振動の工具開発が大切と考え、工具製造メーカーの方にも参加してもらっています。

この機会に振動障害について紹介させていただきました。学会および皆様方の益々のご発展を祈念いたします。

## 日本産業衛生学会奨励賞 受賞報告

ヤマハ株式会社 産業医 山本 誠



東海地方会の皆様、今回現場の産業医として奨励賞という栄えある賞をいただくことができました。今までの活動を振り返ると、学会で学んだことが私の大きな支えになっていたことを再認識出来ました。いくつかの経験をご紹介します。

専属産業医になりたての頃、健康会計に関するシンポジウムを聞きました。そこで自社の健康管理部門の経費やサービスの価値を会計で見える化し、不景気の際、会社への説明材料をあらかじめ揃えることが出来ました。さらに学会で健康経営優良法人(ホワイト500)が選定されることを知っていたので、あらかじめ関係しそうな健康管理に関する上位文書や関連データをまとめておいたところ、たまたま健康経営銘柄調査書を記載する役割を与えられ、ホワイト500を取得することができました。

また、専門医を取得したころ、産業医部会主催の産業保健プロフェッショナルコース(Pコース)に参加しま

した。ちょうどメンタルヘルス対応で困っていたところ、講師だった三柴丈典先生の講義で、会社および産業医が行う役割が明確になり、難しい復職案件に対応して社内の信用を得ることが出来ました。研修のディスカッションおよび懇親会での会話から、産業医としての中立性や、支援の最終形態は自律などのキーワードが自分自身の支えとなりました。

振り返ると、諸先輩方のお導きで82回総会の実行委員を皮切りに、23回、31回全国協議会、92回、97回総会、2017年から東海地方会事務局長、Pコース企画運営委員長、広報委員など拝命しました。ボランティアな活動ながら、自発的かつ魅力的な皆様との人脈が出来、自分の能力が高まりながら社会貢献出来たのは本当に得難い経験だったと思います。

奨励賞にご推薦いただいた、佐藤裕司先生、西健一郎先生、東海地方会の斉藤政彦先生、石川浩二先生、遠田和彦先生、上原正道先生、産業医科大学産業生態科学研究所労働衛生工学研究室の故田中勇武先生、明星敏彦先生、東秀憲先生、大藪貴子先生と多くの先輩方、いつも支えてくれる同僚、同期、後輩と家族に深く感謝致します。

## トピックス

## 静岡県産業医活動報告



2023 年の経済構造実態調査によると、静岡県の工業製品出荷額は 19 兆 291 億円で、全国第 3 位となっています。従業員 50 人以上の製造業事業所は、2,443 か所に上り、旅館業や小売業など、産業医を必要とする業種

も多いため、県全体として産業保健活動の重要性は非常に高いといえます。

一方、2022 年の統計によれば、県内の医師数は 8,535 人で、人口 10 万人あたりの医師数は 238.3 人と、全国平均 (274.7 人) を大きく下回っています。特に伊豆地域や中東遠、志太榛原地区では医師不足が深刻であり、産業医の地域偏在も顕著です。そのため、必要な地域で産業医を確保することが困難な状況にあります。

郡市医師会からは、「すでに活動中の産業医が多忙で、新規事業所への対応が難しい」との声がある一方で、産業医研修会に参加した勤務医からは、「資格は取得したが、活動の機会がない」との声も寄せられています。

こうした課題に対応するため、静岡産業保健総合支援センターでは、静岡県医師会の協力のもと、2019 年度より労働者健康安全機構の「産業医ネットワークモデル事業」に参加し、産業医と事業所のマッチング事業を展開しています。

まず県医師会に登録された認定産業医と、県内の従業員 50 人以上の事業所を対象にアンケートを実施しました。その結果、産業医側からは「初めての活動に踏

一般財団法人日本予防医学協会 赤津 順一

み出しにくい」「募集情報にアクセスしにくい」、事業者側からは「産業医との関わり方が分からない」といった課題が明らかになりました。

これを受け、本事業では、初めて産業医活動を行う方を支援するため、職場巡視などの実務を体験できる実践的な産業医研修会を開催しています。また、事業者向けには、産業医活動の意義や連携の方法、情報提供のあり方などを啓発する研修会を継続して実施しています。

もう一つの柱であるマッチング事業では、登録産業医に対して希望地域の事業所の募集情報を提供し、希望者が産業医履歴書を提出した上で、事業所と個別に交渉・契約を行う仕組みを採用しています。従来は郡市医師会単位で紹介が行われていたため地域が限定されていましたが、本事業では広域での紹介が可能となっており、勤務医の参入も支援できる点が特徴です。

2020 年度以降、57 件の事業所から正式な募集があり、そのうち 45 件で嘱託産業医契約が成立しています。事業所からは「産業医の選任によって産業保健活動が活性化し、メンタルヘルス対応も進んだ」、産業医からは「新たな実務経験を得る貴重な機会となった」との声が寄せられています。

また、センターの支援により、「静岡産業医カンファレンス」が 25 年間にわたり継続して開催されています。専属産業医を中心に始まったこの会には、近年では嘱託産業医の参加も年々増加しています。新たな課題に関する情報提供、活動報告や悩みの共有、メーリングリストによる迅速な情報交換、さらには懇親の場での率直な意見交換も行われており、現在は 83 名が登録しています。2025 年 7 月 4 日で第 96 回の開催となりました。一人での活動が求められがちな産業医にとって、非常に心強い支援の場となっています。



## リレーエッセイ

## 中小企業の健康支援を支える開業保健師の日々

健康企業推進サポート シャイニング・ライフ 水越真代



未来労働衛生コンサルタント事務所の高畑真司先生からバトンを受け取りました、水越と申します。高畑先生とは、「さんぽ会名古屋」という産業保健にかかわる産業医や保健師などがあつまり、産業保健界隈のことを学

び交流する自主勉強会で知り合いになり、日々ご相談に乗っていただいています。

私は、開業保健師として中小・零細企業の健康支援を行っています。このエッセイでは、開業保健師としての実際、そして今後の展望についてお話をさせていただきます。

## 開業のきっかけ

地域支援をしていた時、「うちの旦那にもこんなことをしてくれたらいいのに」という声をいただいたことでした。その声から、中小企業に健康支援の専門職の手が届いていないことに気づき、必要な時に支援ができる看護職がいればいいのかと思い開業を決意しました。しかし、当時を振り返りますと、中小企業の経営者とのつながりもなく、社会的土壌が整っていない中で開業は無謀ともいえるものでした。それでも、若さと勢いで突き進んだ結果、今に至っています。

## 開業保健師としてどんなことをしているの？

現在、ほとんどが産業医の選任義務がない企業との契約です。きっかけは、メンタル不調への対応など困りごとの解決のため、または健康経営優良法人の取得のためという 2 つの課題からです。多くの中小・零細企業は、産業保健や健康経営に対する理解が浅かったり、限られたリソースで何をどこから始めればよいか分からないという課題を抱えています。そこで、まず、現在

の健康状態や取り組み状況をアセスメントし、健康課題から、1 年の取り組みを無理のない範囲で実施できるようご提案をし、取り組み内容を決めていきます。専門職として、会社が取り組むべきことの整理、従業員さんには健康診断後の事後指導や健康セミナーなどを実施しています。また、評価として、従業員アンケートを実施し、プレゼンティズムやヘルスリテラシーなどの測定をしています。年度末には、1 年のまとめを行い、次年度の取り組みについて報告をします。

面談を実施してみると、初めて保健師という存在を知ることがかなり多く「保健師とは」という紹介から始めています。健康診断結果を見たことがない方も多く、健診結果の意味をお話しすることも多いです。また血圧や血糖値が高くて未受診の方、受診はしていても生活習慣についてあまり考えたことのない方、仕事に対する、もやもやを抱えた方など様々です。評価アンケートでも、保健師の面談は要望が高く、ゆっくり話を聞いてもらう経験は、健康の振り返りやストレスの軽減、感情の整理にもつながっているのではないかと感じています。

## 今後について

中小企業のストレスチェックが義務化されました。どのような取り組みになるかは、まだ見通せませんが、ストレスチェックをきっかけに、健康づくりに取り組む企業が増えるといいなと思っています。また、零細企業は地域社会と深くつながっているため、地域保健と産業保健を融合させた活動ができればと思っていますが、その方法についてはまだ模索中です。

これからも、微力ではありますが産業保健活動を通じて社会に貢献していきたいと考えています。

今回は、若手保健師の勉強会を、仲間とともに立ち上げた、TOPPAN グループ健康保険組合 名古屋診療所 保健師の増田彩希さんにバトンを渡します。増田さん、よろしくお願いいたします。

## 会 員 の 声

## 新任理事の挨拶



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました井山裕子(いやまひろこ)と申します。このようなご挨拶の機会をいただき、感謝申し上げます。また、学会活動の機会をいただけますことに喜びを感じるとともに、新たな役割を果たすべく、努力してまいります。

私は、4年前まで、泌尿器科、特に小児泌尿器を専門として臨床医をしておりました。大学院で基礎研究もを行い、あいち小児保健医療総合センターに勤務し、専門性を高めてきていました。しかし、外科医を辞めざるをえなくなり、第二の人生として産業医に転職をしました。日本医師会認定産業医を取得していたとはいえ、産業医の実務経験はなく、4年前に豊田自動織機に入職し、ゼロから学びはじめました。

株式会社 豊田自動織機 産業医 井山裕子

弊社は、製造業における様々な業務に対して、幅広く、産業医として対応することが求められました。さらに近年では、法定業務のみならず、人口減少など社会の変化に対し必要性が増す健康経営の推進など、企業価値を高めるような産業医のアドバイスも求められる時代となってきました。私は、このような時代の産業医という職業がとても楽しく、より専門性を高めていきたいと思いました。この4年間、東海地方会をはじめ、色々な勉強会に参加しながら、産業医の幅と深さをもつべく学んでまいりました。まだまだ未熟ですが、より専門性をもって学会活動を行い、社会にも貢献できればと思っております。

このような機会をいただきましたことに感謝いたしますとともに、東海地方会の発展に少しでも貢献ができるよう尽力してまいりたいと思っておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新任理事の挨拶

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 名古屋健康管理室 室長 川島正敏



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命致しました、東海旅客鉄道株式会社の産業医の川島正敏と申します。ご挨拶の機会をいただき、誠にありがとうございます。

私は1998年に産業医科大学を卒業し、卒後修練過程を経て、2003年に東海旅客鉄道に就職し、東海地区にて産業医として活動を開始しました。一時期、他の業種にて従事していた時期があり、2011年に再び東海旅客鉄道に就職しました。その後、社内の異動にて近畿や関東にいた時期が長くありましたが、2023年7月から再び東海地方にて活動することとなりました。

東海旅客鉄道には、在籍期間が通算で17年を超え、多くの諸先輩、同僚、後輩達とともに健康管理体制を確立し、発展させていくことに関与してきました。その中で、今後も様々なことが起こりうる社会の状況におい

て、幅広く産業保健活動を継続していくためには、後進の育成が何よりも大事だという思いを強くしています。弊社においては、定期的に新たな産業医が着任しており、結果として産業保健の基本を習得する機会を定期的に作るができていると考えています。これらは既存の産業医にも基本を勉強しなおす機会にもなっており、有効な学びとなっております。

東海旅客鉄道は鉄道業であり、社員の健康管理として行う生活習慣病やメンタルヘルスに関わる対策に加え、公共の安全を担うという特殊な一面を持っています。これらを効果的に組み合わせ、社員の健康に資することにより、社会に貢献すべく、日々精進することを目指したいと思っております。

これからも、東海地区から産業保健のさらなる発展に寄与していきたいと考えています。ぜひ皆様方のご指導をいただきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

## 新任理事の挨拶

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師 田中みき



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命いたしました田中みきと申します。

このようなご挨拶の機会を頂き感謝申し上げます。

私は、新卒でトヨタ自動車に入社し、気づけばもう 25 年以上も経ちました。各事業所での産業保健師の実務、海外勤務者の健康管理、全社企画・事務局（主にメンタルヘルス対策や保健指導）を経験しました。また他社へ 2 年間出向させて頂き、現在は全社企画事務局のリーダーと保健師の統括という立場で、主にメンタルヘルス対策、保健指導等の施策の推進と保健師の人材育成の役割を担っております。

入社当時、保健師は 10 人未満でしたが、今はその 7 倍以上に増え、諸先輩方や上司の方のご理解・ご尽力により産業保健体制や取り組みも随分変わりました。また、当時の名称も、「安全衛生推進部」⇒「安全健康推進部」に変更、時には、ある取り組みでは「健康安全」

と、健康を先に記す場面もあり社内での健康文化が変わっていく様子を感じています。

ここ最近では健康経営が広く認知されるようになり、産業保健スタッフが健康経営に関与することを求められるようになってきています。健康経営と産業保健は重なるところが多く、私たちへの期待も高まり、活動を後押ししてくれていると感じます。少子高齢化、労働人口の減少、多様な働き方、メンタルヘルス等様々な変化や課題に柔軟に対応できるよう、産業看護職も本学会の学術大会、研修会、産業看護専門家制度等を活用し継続的にスキル向上に取り組んでいきたいと思っております。また、昨年、保健師関連 6 団体協力のもと、保健師のコアバリュー・コアコンピテンシーがまとまりました。今後、産業保健スタッフの育成等にどう活用するのか考えていきたいと思っています。

今までの経験を活かし、東海地方会の発展に少しでも貢献できるよう尽力したいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 事務局から

### 地方会理事会

#### 2024 年度第 3 回理事会

日時：2025 年 1 月 25 日（土） 10:00～12:00  
Zoom による Web 会議

#### 【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 協議事項  
1) 次期体制について 2) 今後の地方会運営について 3) 地方会学会企画運営委員会の機能について 4) 次回の理事会の日程について 5) その他
- III. 報告事項  
1) 2024 年度地方会学会開催報告 2) 第 37 回産業保健スタッフのための研修会開催報告 3) 2025 年地方会学会準備状況 4) 本部理事会報告 5) 地方会事務局報告 6) 地方会活動方針検討委員会 7) 学術研究推進委員会 8) 編集委員会 9) 研修会企画委員会 10) 広報委員会 11) 表彰制度推薦委員会 12) 選挙管理委員会 13) 部会報告 14) 職場ストレス研究会報告 15) 各県の活動報告 16) その他報告事項 17) 関連学会研究会開催情報 18) その他

#### 2025 年度第 1 回理事会

日時：2025 年 6 月 14 日（土） 10:00～12:00  
Zoom による Web 会議

#### 【議題】

- I. 前回理事会議事録（案）の確認
- II. 協議事項  
1) 2025 年度総会について 2) 2025 年度地方会学会について 3) 第 38 回産業保健スタッフのための研修会 4) 新年度の執行部体制について 5) 今後の地方会運営について 6) 医師会産業医ポイント制度の変更について 7) 百年記念事業について 8) 次回の理事会日程について 9) その他
- III. 報告事項  
1) 2025 年度地方会学会開催報告 2) 第 38 回産業保健スタッフのための研修会準備状況 3) 第 102 回日本産業衛生学会準備状況 4) 本部理事会報告 5) 地方会事務局報告 6) 地方会活動方針検討委員会 7) 学術研究推進委員会 8) 編集委員会 9) 研修会企画委員会 10) 広報委員会 11) 表彰制度推薦委員会 12) 部会報告 13) 職場ストレス研究会報告 14) 各県の活動報告 15) その他報告事項 16) 関連学会研究会開催情報 17) その他

## 会員状況

2024 年 10 月 1 日～2025 年 4 月 18 日の推移  
(2025 年 4 月 18 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
増減	-18(-4)	1(1)	-1(0)	3(0)	-15(2)
本部正会員	542(4)	242(1)	119(0)	53(0)	956(1)

※( )は学生会員を表す

## これからの行事予定

### 2025 年度 日本産業衛生学会 東海地方会

日時：2025 年 11 月 15 日 (土)

会場：グランシップ

テーマ：組織をゆさぶる産業衛生アプローチ

### 第 20 回 東海産業歯科部会研修会

日時：2025 年 9 月 28 日 (日)

会場：ルプラ王山

講演：(仮) 酸蝕症について

### 第 38 回 産業保健スタッフのための研修会

日時：2025 年 12 月 7 日 (土)

会場：ウインクあいち

内容：実地研修：①産業保健スタッフにおける連携  
の実践について ②データ分析

### 第 58 回 日本産業衛生学会中小企業安全衛生研究会 全国集会

日時：2025 年 12 月 13 日 (土)

会場：名古屋市立大学看護学部 308 講義室

シンポジウム：地域に根づく中小企業の産業保健

### 第 84 回 日本公衆衛生学会総会

日時：2025 年 10 月 29 日 (水) ～31 日 (金)

会場：グランシップ

テーマ：フェーズフリーの地域づくりと健康危機管理

### 第 35 回 日本産業衛生学会 全国協議会

日時：2025 年 11 月 27 日 (木) ～29 日 (土)

会場：あわぎんホール

テーマ：すべての労働者が元気に働ける産業保健を  
めざして

### 第 33 回 日本産業ストレス学会

日時：2025 年 11 月 28 日 (金) ～29 日 (土)

会場：北九州国際会議場

テーマ：産業ストレスの研究と実践の交差点

### 第 99 回 日本産業衛生学会

日時：2026 年 5 月 27 日 (水) ～30 日 (土)

会場：グランキューブ大阪

## 編集後記

現在、2025 年大阪・関西万博が開催されています。この万博の目指すものは、持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献と、日本の国家戦略 Society5.0 の実現で、未来を創造する機会です。奇しくも、今年は昭和 100 周年で昭和を振り返るタイミングでもあります。産業保健の現場でも、時代の変化とともに新たに生じる課題もあれば、過去の積み重ねから生じている課題もありますが、今日がより良い未来の土台になれるように、日々努力し続けたいと感ずるこの頃です。

キヤノン (株) 池田友紀子

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)

副編集委員長：西谷 直子 (名古屋大学)

編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)

伊藤 由起 (名古屋市立大学)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

近藤 祥 (聖隷健康診断センター)

榊原 洋子 (愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀 (中部大学)

日笠ちはる (ブラザー)

山本 誠 (ヤマハ)

### 東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F  
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン  
事業共創部 コンベンション第二事業局内  
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

### 印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1  
有限会社トータルマップ  
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718